



給食週間特別号
平成31年1月
大山崎小学校

学校給食週間 1月21日(月)～1月25日(金)

時代の流れにそって食生活も変化し、給食も変化してきました。今年の給食週間では、昔の給食を振り返り、当時の時代背景を知り人々の思いを感じながら味わいます。

給食週間のテーマ

「給食の歴史を知ろう」

① いつから始まったの？

明治22年、山形県鶴岡市の忠愛小学校で、貧困児童を対象に無料で出されていた昼食が、給食の始まりと言われています。



山形県鶴岡市 記念碑

② 給食が広まったわけ

食糧不足からくる子どもたちの栄養不良の状態を改善するために、昭和7年以後は国からもお金が交付されるようになり、学校給食は全国的に広がっていきました。

③ 戦後学校給食再開に向けて

第二次世界大戦後、日本の子どもたちの飢えを救おうと、アメリカの民間団体ララから脱脂粉乳や小麦、缶詰などが送られてきました。そして昭和21年12月24日、東京・神奈川・千葉で試験的に学校給食が実施されました。それ以来、12月24日を学校給食感謝の日と定めていましたが、冬休み期間と重なるため、1月24日から30日までの1週間が「全国学校給食週間」となりました。



ララ物資



④ 現在の学校給食は

成長期の子どもたちの健康増進に役立つ、栄養バランスのとれた食事となるよう考えています。また地場産物や郷土料理、行事食などを取り入れて、食文化や伝統に対する理解を深め、食への関心を高められるようにしています。

給食週間のこんだて



学校給食の歴史

年 代	当時の写真	給 食 の 内 容	給食週間の献立
明治時代		日本で最初の給食と言われているのは、明治22年に山形県の忠愛小学校で出されたものです。メニューは、おにぎり・焼き魚・つけものでした。	1月21日(月) おにぎり(鰹) 牛乳 焼き鮭 煮びたし
戦争中		戦争がはじまり、給食のメニューはすいとんのみそ汁だけになりました。戦争が激しくなると、子どもたちは学校に通うことができなくなり、給食もなくなりました。	
戦後		海外から脱脂粉乳や缶詰が日本に届けられ、ふたたび給食がはじめられるようになりました。このころのおかずは、アメリカのララ物資により届けられた脱脂粉乳がたくさん使われていました。	1月22日(火) コッペパン 牛乳 昔のシチュー フレンチサラダ
昭和40年代		このころ、日本ではくじらの肉が貴重なタンパク源でした。給食でも、人気メニューのひとつでした。	1月23日(水) ごはん 牛乳 くじらの味噌ケチャップあえ ごまあえ みそ汁
昭和50年代		パンと麺だけだった給食にごはんが加わり、メニューの種類が増えました。みなさんの大好きなビーフカレーも、このころから給食で食べられるようになりました。	1月24日(木) 麦ごはん 牛乳 ビーフカレー フルーツの ヨーグルトあえ
現在		炊き込みごはんやセレクト給食、手作りデザート、世界の料理など、いろいろな給食が食べられています。	1月25日(金) 和風チキンライス 牛乳 もやしのカレーソーテー ABCスープ みかん